

## 町産材を用いた滝上町国民健康保険診療所

滝上町役場

守屋 徹



9月25日、建設が進められていた滝上町国民健康保険診療所（以下、滝上町診療所）が開業しました（写真1）。滝上町診療所は、町産材の利用、SGECプロジェクト部分認証の取得（予定）、Nearly ZEB（後述）の省エネルギー性能などの特徴があります。そこで、滝上町農林建設課の守屋課長（建設担当）にお話を伺いました。



写真1 滝上町診療所 正面

### ■滝上町がめざすゼロカーボン

滝上町は町面積の約90%を森林が占め、森林の98%は森林認証を取得しています。この森林認証率は全国の自治体の中でも第1位となります。

滝上町ではこの豊かな森林を生かし、たとえば下記のような施策を通じて町の活性化を図っています。

- ①「ずっと住まいのたきのうえ！」支援事業  
構造材・下地製材材積の50%以上に認証材を用いて住宅を新築した場合、表1の補助を行う。

表1 住宅新築に対する支援（抜粋）

	床面積(m <sup>2</sup> )	補助額(万円)
一戸建住宅	60 以上 90 未満	200
	90 以上	300
共同住宅等	—	300

### ②木質バイオマスの活用

- ・バイオマстаун構想の策定・認定（2008年）
- ・バイオマス産業都市構想の策定・認定（2017年）
- ・ゼロカーボンシティ宣言（2022年）

- ・ゼロカーボンエコタウン推進計画の策定、地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（環境省）への採択（2023年）
- 直近のゼロカーボンエコタウン推進計画では2030年度に2013年度比で温室効果ガスの排出量の50%削減を掲げて、表2に例示する事業に取り組むこととしています。

表2 ゼロカーボンエコタウン推進計画（抜粋）

施設等	内容
滝上町診療所	木質バイオマス熱電併給設備導入 太陽光発電設備導入 ZEB*化
新築公営住宅	ZEH*化
一般住宅 事業所	太陽光発電設備導入補助 等

\*：年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物（ZEB）、住宅（ZEH）

### ■滝上町診療所改築の経緯

滝上町診療所は1956年に開設され、1975年に移転改築されました。移転から40年以上が経過して老朽化が進み、加えて2016年の消防法施行令改正により、2025年6月末までにスプリンクラー設備の設置が義務付けられたことから、下記のとおりに施設整備が進められました。

- ・基本構想の策定（2022年）
- ・基本計画、実施設計の策定（2023年）
- ・建築工事開始（2024年1月）
- ・建築工事終了（2025年7月）

基本計画には、必要な医療機能を十分に発揮出来る施設とともに、町内に豊富に存在する木質バイオマスの活用、太陽光発電パネルの導入等についても示されています。

また、2023年に改訂した「滝上町地域材利用推進方針」では、下記の方針を定めています。

- ・公共建築物の木造化・木質化
- ・森林認証材をはじめとする地域材の使用
- ・品質の明らかなJAS製品の使用

- 木質耐火部材等の新たな木質部材の活用  
以上のような町のさまざまな施策方針に基づいて建築された滝上町診療所は、表3に示す3点が特徴となっています。

表3 滝上町診療所の特徴

特徴	概要
高い省エネ性能 (Nearly ZEB*)	太陽光発電設備（130kW） 建物の高断熱化、高効率設備 例：トリプルガラスカーテン ウォール
町産材の活用	認証材の使用 SGEC プロジェクト部分認証 (予定) 木質バイオマス熱電併給設備
接合金物工法	加盟店制度や施工講習会参加 義務等がない工法を採用し、地 元事業者による施工を実現

\*: 従来の建物で必要なエネルギー（基準一次エネルギー）消費量から、省エネ+創エネで75%以上削減（環境省ホームページ：<https://www.env.go.jp/earth/zeb/detail/01.html>）

## ■建物の概要

滝上町診療所の概要は表4のとおりです。

表4 滝上町診療所の概要

項目	概要
設計	株式会社岩見田・設計
建築工事	渡辺・浜中・桑原・菊地・大原特定建設
実施主体	共同企業体
構造	木造
防火性能	準耐火
階数	2階、屋上にペントハウス設置
延床面積	2,289.9m <sup>2</sup>
熱源	2025年8月から：商用電力 2026年以降：太陽光発電+バイオマス CHP 热電併給+商用電力
省エネ仕様	Nearly ZEB

滝上町診療所は、木軸材の接合部に金物を用いたKES構法\*を採用し、耐震性や施工効率の高い構造を実現しています。

\* : (株) シエルターの開発した接合金物工法

また、滝上町診療所は2階建てで延床面積が1,000m<sup>2</sup>を越えることから準耐火建築物としなければなりません。構造材に木材を使って準耐火建築物の基準をクリアする方法として、

- 木構造材を石こうボード等で覆う
  - 木材の表面が燃えても構造に支障がないことを確かめる「燃えしろ設計」を用いる
  - 外壁を耐火構造とする
- などの方法があります。

滝上町診療所は1)を基本としているため竣工後、木構造は隠れますが、待合ホールの3本の柱については2)を用い、木材を現しとしています（写真2）。



写真2 待合ホール

写真右：燃えしろ設計によるカラマツ集成材柱

写真奥：トリプルガラスカーテンウォール

## ■町産材、認証材の利用

滝上町診療所における町産材の流れを表5に示します。ここに掲載している森林管理から伐採、製材、集成材加工、プレカットに至る工程に関わる事業者は全てFMもしくはCOCの認証を取得しています。従って、町産材=認証材、となります。また、町内森林の98%が認証林なので、認証材の供給はスムーズに進めることができます。なお、SGEC認証材及びSGEC管理材に適合しない材を一部に用いる必要があり、部分認証を選択しました。

認証取得を進めるに当たっては、新たな業務（写真3）や運用ルールの導入が増え、現場や関係者に対して業務負担の増加をもたらしました。特に、従来の業務フローに変更を加える必要があり、関係部署との調整や理解促進に時間と労力を要しました。

道内では8施設がSGECプロジェクト認証を取得し

ています。滝上町診療所に対する審査が進み、認証が得られると道内で9施設目、オホーツク管内では初のプロジェクト認証となります。



写真3 認証材（カラマツ集成材）の検査

木材使用量を表6に、建築途中の構造を写真4、5に示します。また、表6には含まれていませんが、正面玄関の庇を支える鋼材を覆うカラマツサーモウッド、受付の壁の装飾に多種多様な樹種の輪切り材など、木材を見せることを意識したデザインを施しています。



写真4 トドマツ間柱



写真5 構造全景

表6 使用木材

産地	樹種	材種	量(m <sup>3</sup> )
滝上町	カラマツ	構造用集成材	243
	トドマツ	下地用製材	104
道内		合板	142
	カラマツ	内装羽目板	若干
		カウンタ一天板	若干

### ■これから

プロジェクト認証の管理主体である（株）シェルターが認証取得の取り組みを対外的にPRするとともに、滝上町も、SGEC認証材を用いたことのプロモーション活動を予定しています。また、HOKKAIDO WOOD BUILDINGへの登録も行いました。

さらに、2025～2026年度にかけて町産材を活用したZEH職員住宅の新築を計画しているなど、これからも町産材の活用を進めていく予定です。

表5 認証材の流れ、SGECプロジェクト部分認証取得の範囲

材料の種類	製材	小中断面集成材	大断面集成材
樹種	トドマツ	カラマツ	カラマツ
森林管理	滝上町	滝上町森林組合グループ	
丸太の伐採	(株)グリーンたきのうえ	江本木材産業(株) (有)真貝林工	江本木材産業(株) (有)真貝林工
製材	井上産業(株)滝上工場	江本木材産業(株)	江本木材産業(株)
集成材	—	佐藤木材工業(株)	(協)オホーツクウッドピア

↓

SGECプロジェクト部分認証

管理主体：(株)シェルター

認証範囲：原材料や製品の調達、建て方